

# イタリアの農家経営に欠かせない アグリツーリズム!



2023年8月30日 2022年度第1回(通算145回)農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナー【講師】 GEN Japan/JINOWA consortium メンバー 岡崎 啓子氏(イタリア・エミリア=ロマーナ州在住)を開催しました。

食は命をつなぐ重要な資源のみならず、ワインやチーズなど豊かなライフスタイルを形作る重要な要素です。

大いなる田舎の国、イタリアの農村で休暇をとる楽しさを提供するアグリツーリズムは、持続的な農家の経営においても欠くことができない取り組みとなっているそうです。

イタリアに在住しイタリアの食文化やアグリツーリズムに詳しい岡崎さんと、日本の食文化、食による地域活性化や、イタリアのスローフードにも詳しい、食環境ジャーナリストの金丸弘美さんを案内役に迎えて、1年ぶりに農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナーを開催しました。

欧州のグリーン・ツーリズムとしては、遅れてスタートした感のあるイタリアのアグリツーリズムは、今どのような状態なのでしょう。最新の情報を聞いて、農家の立場から、政策

としての取り組み方、そしてアグリツーリズムを楽しむ庶民の立場から、イタリアのツーリズムの様子や思想を知ること、今後の日本の農業農村の行く末を考えるヒントになりました。

イタリアのアグリツーリズムは、1960年代にトスカーナ地方を中心に自発的に始まり、1985年には農家が副業として観光事業を行うことへの補助金が出るようになり、拡大しています。

「宿泊者を受け入れ、現地の農作物やそれで作られた食事などを提供し、農林業もしくは畜産に関わる催しを行ったり、現地の自然でスポーツを楽しんだり出来る機会を提供する個人や法人のこと」とされており、登録制になっています。

アグリツーリズムに取り組む農家の多くは所得の半分近くが観光収入となっており、労働日数当たりに換算すると観光収入のほうが上回っている事例も出ているなど農家経営に欠かせない収入源であり、女性や若者が活躍出来る場として、重要になっています。

特に、今回のお話では、地域認証による地域の食品、特産品が、イタリア農業、ひいてはツーリズムに大きな貢献していること、地域の特色・個性を発見・磨くことが、地域外の人々を呼び込み、ツーリズムによる外貨（地域外からのお金）獲得に効果を発揮していることを学びました。

高齢化人口減少化が著しい日本の農山漁村地域にとって、アグリーツーリズム、グリーン・ツーリズムが新たなイノベーションを生むきっかけになるのではないのでしょうか。



## 【今回のセミナーのポイント】

### 第1部 アグリツーリズムとは

- ・魅力と普及のあゆみ
- ・その背景としてのイタリアの農業の特徴、農産物
- ・加工品の地理的認証
- ・定義とアグリツーリズム法（国の規則、州別の規則）

### 第2部 公的経済支援 アグリツーリズム推進の目的

- ・事例紹介
- ・アグリツーリズム × サイクルツーリズム
- ・まとめ

◎岡崎啓子さんは、1977年 埼玉県の兼業農家の生まれ、田畑のある環境や農家の四季の営みを身近に育つ。

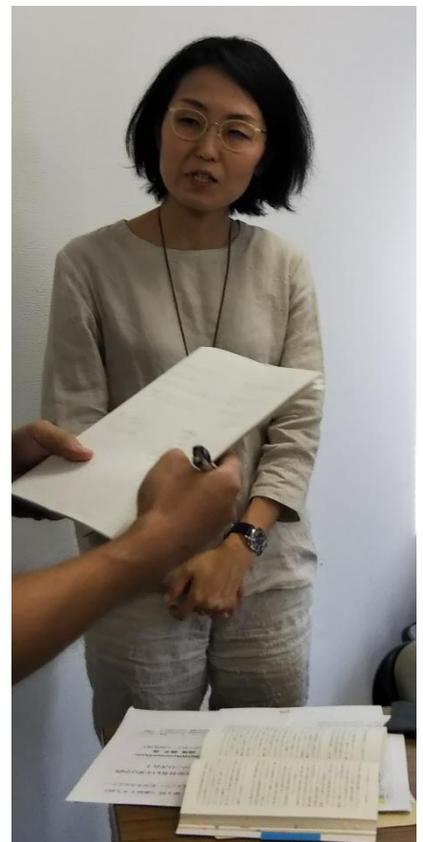
○2000年 東京女子大学 現代文化学部 コミュニケーション学科卒業（現：現代教養学部）

○卒業後、イベント制作会社に就職。案件ごとに異なる業界を垣間見る中で、自分にとっては「食」に関わるのが一番楽しく、自分のルーツにも深く影響していたことに気づく。当時日本に伝わり始めていたスローフード運動にも注目していたところ、スローフード協会が「食」の全く新しい学びを提供する大学を新設することを知り、2004年渡伊。

○2008年 イタリア食科学大学（University of Gastronomic Science of Pollenzo）学部第一期生として卒業。

○2008-2014年 高品質なイタリアの食品の販売・レストラン・教育事業を行うイータリー社・トリノ市（Eataly S.p.A.）で、日本を主とする海外展開事業に関わる。生産者とのリレーション、仕入れ、輸出入を日伊両サイドからサポートしたほか、事業コンセプトや生産者を深く知り語れる要員がいなかったために、メディア対応やイベント企画も担当。

○その後出産・育児休暇を経て、GEN Japan/JINOWA consortium メンバーとなる。JINOWA ディレクターとして、イタリアと中心とする欧州と日本を繋ぎながら、食・農・暮らしの伝統の知恵や技術からイノベーションを目指す、体験に基づく学びの機会の提供や、国際人材交流に関わっている。



- ・株式会社 GEN Japan <https://www.gen.education/>
- JINOWA consortium <https://www.jinowa.org/>
- <https://ideasforgood.jp/> (★サイト内で JINOWA で検索してください)

## 現在の住まいのある地域

### 【エミリア・ロマーニャ州】

- ・イタリア最大の河川、ポー川が流れ、その周域にパダナ平原が広がる。
- ・広い平野を利用した農業、酪農、畜産、これらを原料とした加工食品（トマト加工製品、大型の硬質チーズ、生ハム・サラミ）の一大産地。Food Valley とも称される。



### ★レジュメ

- ▲食科学大学と EATALY
- ▲現在の住まいのある地域 【エミリア・ロマーニャ州】
- ▲アグリツーリズムとは
- ▲イタリアの農業の特徴
- ▲農産物・食品を保護する地理的認証
- ▲農産物を保護する地理的認証
- ▲暮らしの中に溶け込んでいるアグリツーリズム
- ▲アグリツーリズムの魅力
- ▲アグリツーリズムの起こり
- ▲アグリツーリズムの定義
- ▲アグリツーリズム法 (国レベル)
- ▲アグリツーリズム法 (州別の規則)

- ▲公的経済支援
- ▲アグリツーリズム推進の目的
- ▲アグリツーリズム事例
- ▲アグリツーリズム × サイクルツーリズム
- ▲まとめ
- ▲おわりに



今セミナーは、アフターコロナ、ウイズコロナ時代のセミナーとして、対面により開催しました。岡崎さん、金丸さん、そして本セミナーにご参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

なお、月刊「**NOSAI (送料・消費税込み460円)**」の7月号から、「イリアアグリーツーリズム・レポート(金丸さん、岡崎さん共著)」として連載中です。ご関心ある方は、ぜひ入手ください。

[http://www.nosai.or.jp/nosai\\_kasou/syuppan.html](http://www.nosai.or.jp/nosai_kasou/syuppan.html)

7月号「食・宿泊・体験できる農家は2万5千軒以上」

8月号「生活圏の身近なところに多くあるアグリツーリズム」

9月号「生活圏の身近なところに多くあるアグリツーリズム(その2)」

本レポートは、農山漁村コミュニティ・ビジネスセミナーをご紹介するために、事務局が感じた印象的な部分を簡単(ほんの一部をご紹介)にまとめています。実際のセミナーでは、さらに多様な情報の提供、実態の分析等の具体内容を講演いただいております。

